

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H03456

研究課題名(和文) 異文化滞在者のソーシャルスキル学習 - 異文化間健康心理学の開発を志向した学際的研究

研究課題名(英文) Social skills learning for sojourners: The interdisciplinary study for developing the cross-cultural healthy psychology

研究代表者

田中 共子 (Tanaka, Tomoko)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40227153

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,100,000円

研究成果の概要(和文)：ソーシャルスキルの異文化適応促進仮説に注目し、教育応用を視野に対人関係の形成・維持・発展のための異文化間ソーシャルスキルの実証的解明をめざした。認知行動療法の手法を異文化間心理学と異文化間教育学に応用し、健康教育としての心理教育に活かす発想を持つ。在外日本人と在日外国人を対象に複数文化圏を取り上げ、異文化適応を多角的に調べた。社会文化的困難と対処を探索し、対人行動の適応価を評価し、学習教材開発に有用な情報を収集した。コミュニティ型適応、自由人、文化行動のスイッチング、アカデミック・カルチャーショック、日系人の両価性、を造語した。異文化適応研究の新たな知見の構築と理論的進展に貢献した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来異文化適応研究の主軸となってきた日米間ではなく、ブラジル、トルコ、フランス、セルビア、ベトナム、インドネシア、中国といった、研究が未開拓の多様な文化圏に焦点を当てた。これらの国と日本との国際移動者に心理学的解明の光を当て、開拓的知見をもたらした。その新規性と開拓性が学会賞に結びついた研究もある。教育応用を視野に入れており、グローバル化を支援する介入研究への展開が期待できる。欧米中心だった異文化適応理論の文化一般性を検証し、特定地域間の移動と適応を詳細に評価し、文化特定性を伴う現象の解明を進めた。総括として、異文化適応研究をアジア発の知見で問い直す提言を行い、その流れの一翼を担った。

研究成果の概要(英文)：According to cross-cultural adaptation enhancing hypothesis of social skills, cross-cultural social skills for interpersonal relationship formation were investigated with consideration with educational application. Techniques of cognitive behavioral therapy were applied to cross-cultural psychology and cross-cultural education study. Japanese people in oversea countries and international people in Japan were investigated. Socio-cultural difficulty and coping, influence of interpersonal behaviors to adjustment were investigated. Information for educational materials were collected. Some words were created like community style adjustment, free person, cultural behavior switching, academic culture shock, and ambivalence of Japanese Brazilians. This study contributed to constructing new knowledge and theoretical development of cross-cultural adjustment.

研究分野：健康心理学、異文化間心理学

キーワード：異文化適応 健康教育 異文化間ソーシャルスキル 在外日本人 在日外国人 異文化間教育 心理教育 異文化接触

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)社会的背景

急速なグローバル化の中で、健康心理学も国内向けの健康指導に閉じてはられず、国境を越えた流動性の中で人がどう健康を保つかという、新たな課題が生じている。

(2)学術的背景

異文化圏での対人関係が文化受容やソーシャルサポートの獲得につながるなどの知見から、異文化間の対人関係形成の適応価を軸にした、ソーシャルスキルの異文化適応促進仮説に注目したい。だが、人付き合いの要領「ソーシャルスキル」の「訓練」は、臨床心理学領域で普及しているものの、国内でのドメスティックな関係への適用になっている。

①ソーシャルスキルの研究は、同国内の対人関係研究に焦点を当てて進展している。だが、異文化間の対人関係形成を視野に入れた研究は未開拓である。

②異文化滞在者の研究は、異文化不適応の臨床的な調査・研究はみられる。しかし、その予防策は未発達である。

③健康教育の研究は、国内の生活習慣については盛んに行われている。ただし、異文化滞在者の健康教育は、注目されてこなかった。

④治療的修正の「訓練」は、医療モデルに基づく。しかし母文化を否定することなく、異文化対応の能力を拡充する、「学習」のための教育モデルは未発達である。

(3)異文化間ソーシャルスキル研究の動機

「異文化間ソーシャルスキル」という学術的概念を立てて実証的研究を展開する、学際研究が必要である。

① 異文化間のソーシャルスキルへの着目自体が少ない。

Furnham ら(1986) は、在英留学生の社会的困難を調査、ソーシャルスキルがあれば緩和されるだろうと考察した。しかしスキル教育自体は実施しておらず、理念的提案に留まる。

Baker ら(2005) は、上記 Furnham ら以降、実践研究が進んでいないことを指摘した。そして欧米から豪州への移動者に、一般的な対話のスキルを指導する実践研究を発表した。しかし西洋文化圏内の移動を扱ったものであり、一般的な対人的スキルが学習されるに留まる。文化圏ごとの行動の特徴には、注目がない。

②日本と海外諸国間の移動であれば、文化間距離が大きい異文化間移動になるため、文化特異的な行動の抽出研究が不可欠になる。

日本をはじめとする非西洋圏をフィールドにするなら、文化的独自性を把握し、移行環境の組み合わせによる文化間距離を勘案することが重要になる。すなわち、行動の文化文法を解明して、文化特異的なソーシャルスキルを検討することが必要である。

③異文化間ソーシャルスキルについて、応用を視野に入れた学際研究が求められる。

異文化滞在者の健康は、臨床心理学、社会心理学、異文化間心理学、健康心理学の関わる学際領域である。クロスカルチュラルな基礎研究を開拓して、異文化間教育、健康教育への教育的応用を視野に入れるには、国際交流や異文化共同の職場など、異文化接触の現場に通じた研究者との学際研究が有用である。

2. 研究の目的

本研究では、ソーシャルスキルの異文化適応促進仮説に注目し、対人関係の形成・維持・発展の要領を異文化間ソーシャルスキルとして捉え、異文化圏での対人行動の学習をサポート源確保に繋げて、異文化適応を促進する構図を想定する。異文化滞在者の適応支援をめざして、教育モデルに即した文化学習をベースに、認知行動療法的手法を応用し、健康教育のための心理教育開拓につながる実証研究を進める。

在外日本人向けの海外版と在日外国人向けの日本版を展開して、双方向型かつ多地点型のパラダイムを構築することで、文化特異的な現象の解明と、汎文化性を備えた理論的検討を可能にする。西洋文化圏が優勢だった異文化適応研究を、アジア発の知見で問い直し、理論的総括に貢献する。

3. 研究の方法

(1)文化特異的スキルの解明

社会文化的文脈における対人行動に焦点をあて、異文化滞在者が当該社会で出会う対人葛藤と対処方略を調査し、ソーシャルスキルを抽出する。

①在外日本人

先行例として手がけた米国スキルの研究をモデルに想定し、面接調査と質問紙調査を行う。海外の複数地域に対象文化圏を設定して、視点の多元化を試みる。日本人留学生向けの米国スキルには、要求水準や行動の文化文法の違いに対応する要領を中心に、米国式の強い主張、交渉、自己開示、ジョーク、異性対応などが、学習セッションで取り上げられた(高濱・田中,2009a 他)。

②在日外国人

先に進めた、在日留学生のための異文化間ソーシャルスキル研究をベースに、面接調査と質問

紙調査を行う。特定文化圏を対象とした、文化特異的な現象解明の精緻化を試みる。留学生の実態は多文化集団であり、知見を精緻化して有用性を向上させる。これまで間接表現、集団、言葉のハンディ、目上対応、対話、飲み会に対応するスキルに焦点があてられ、一部に実践が試みられた（田中,1990 他、Tanaka,2013 他）。

(2)各文化間移動に伴う異文化適応現象の解明

日本人の海外滞在と、外国人の日本滞在を立体視し、国際化時代の健康教育へと知見を位置づけていく。文化圏ごとの対人行動を起点に、カルチャーショックの予防策と、社会文化的適応の促進策への示唆をまとめる。アジア拠点の研究発信を進めることで、異文化適応研究の理論的進展をはかり、健康で有意義な異文化滞在を可能にする異文化適応支援策へと総括する。そしてフィールドの状況にあわせて、可能な教育実践を試す。

4. 研究成果

多様な文化間の環境移行における、具体的な異文化間ソーシャルスキルの手かかりが蓄積された。あわせて各文化に特徴的な現象の解明が進み、異文化適応研究への新たな示唆が見出された。対象の文化圏や対象者ごとに示すと、以下の通り（引用は主な刊行論文）。

(1) ムスリムと日本人

文化間距離の大きいムスリムとの交流に焦点を当て、在日ムスリムが日本人ホストとの対人関係形成で経験する困難と対処を調査した。宗教的規範を守りつつ、日本の習慣と馴染ませて、友好的関係を築いていく工夫が明らかになった。再調査を行った縦断研究からは、時間経過に伴い緩和する問題と維持される問題、新たな問題を見出した。日本人ホスト側の方略も調べた。スキル学習に使える文化学習教材として、ホスト用の文化アシミレーターを開発し、教育実践を報告した。また、在インドネシア日本人の調査では、安全面などの社会環境への馴化に工夫しながら暮らす要領を描き出した。中野ら（2016;2017a, b, c;2019a, b;2018）、Nakanoら（2017, 2018）。

(2) ブラジルと日本

在ブラジル日本人のニューカマーは、「社会生活スキル」と「対人スキル」を実施していた。日系ブラジル人は、適応の支援源にもストレス源にもなりうる「両価的存在」であった。開拓的意義と理論的貢献に対し、留学生教育学会の賞を受賞した。迫ら（2017, 2018）。

(3) トルコと日本

在日トルコ人留学生の対人行動上の困難を調べ、対人関係の持ち方や教育風土の違いと混乱を描出した。説明と理解を欠いたまま直面する、異質な教育への戸惑いを、「アカデミックカルチャーショック」と定義した。また、在トルコ日本人の対人行動上の困難を調べ、宗教的制約に配慮した関係形成の要領を描き出した。Sozenら（2018）、Nakanoら（2017）、中野ら（2019）。

(4) 在欧日本人

フランスに留学した日本人留学生は、キーパーソンや共有する場を使いながら、ホストとのネットワークを拡げていくが、関係の深化は比較的難しい。フランスにおける集いの持ち方や、誘いや待ち合わせの要領などを会得して学生生活に馴染んでいった。文化を理解し主体的に行動していく要領に、ソーシャルスキルが認められた。中野ら（2019）。

日本人留学生が、異文化間の友人関係を構築していく過程と心理を探索した。鉄川ら（2018）。

在セルビア日本人を対象に、日本人が比較的少ない海外地域で、同胞とのネットワークに配慮しつつ、ホストとの関係を構築していく要領を描き出した。

(5) 帰国後再適応

日本留学から帰国した中国人を対象に、逆カルチャーショックと対処について調査した。渡航先への適応は、母文化への再適応を促すのか妨げるのかという「弓引きモデル」の検討を行った。

習得スキルが母文化で違和感をもたらすことがある。米国留学から帰国した日本人の適応支援に、自助グループを試みた。高濱ら（2019）。

(6) 在日コリアン

二文化の狭間にいる在日コリアンは、ソーシャルスキルを「スイッチング」して社会文化的適応をはかっていた。文化に依らない「自由人」を標榜する場合がある。異質さの喧伝より、同質性に注目する「日本の多文化共生」を概念的に提案した。Leeら（2017;2019a, b）、李ら（2017）。

(7) 在日外国人

ケア現場の在日外国人労働者における、異文化間ソーシャルスキルを調査した。対人スキルの学習として、留学生にロールプレイ方式の学習を試みた。多文化小集団の留学生が教育現場で実践したホスト対応と相互交流のソーシャルスキルを確認した。社会生活スキルの学習として、地域生活者の外国人にごみすてのシミュレーションゲームを試み、課題解決に向けた知識や動機付けの向上が認められた。畠中ら（2015）、Hatanakaら（2015, 2017）、田中（2018）。

(8) 異文化間ソーシャルスキル

異文化間ソーシャルスキルは、どのように実行され、適応にどのように影響を及ぼし、その学習はどのように効果を持つのかを議論した。文化特異的な要素に目配りをするすることで、西洋の心理学からユニバーサルな心理学へと進み、文化に合わせた理論や技術が開発できる可能性がある。グローバル時代の健康心理学には、環境移行者の健康教育を組み込み、基礎的知見の蓄積、概念的提案、技法の開拓が求められる。田中（2016）。総説を投稿中。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 26件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 21件）

1. 著者名 JungHui Lee and Tomoko Tanaka	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 A Mechanism Linking Discrimination, Conflict, and Switching Behaviour in Bicultural Individuals	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IAFOR Journal of Arts & Humanities	6. 最初と最後の頁 29-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://iafor.org/journal/iafor-journal-of-arts-and-humanities/volume-6-issue-1/article-4/	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 高濱愛・田中共子	4. 巻 101
2. 論文標題 海外留学から帰国した日本人学生を対象とする帰国後異文化間教育プログラムの開発-帰国後のケアとキャリア形成を目的とした自助グループ活動実践の試み-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 留学交流	6. 最初と最後の頁 46-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2019/_icsFiles/afiefieldfile/2019/08/08/201908takahamatanaka.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 中野祥子・田中共子	4. 巻 100
2. 論文標題 ムスリム留学生との交流のために - 調査・実践から見えてきた日本的共同性の視点 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 留学交流	6. 最初と最後の頁 32-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2019/_icsFiles/afiefieldfile/2019/07/09/201907nakanotanaka.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 中野祥子・田中共子	4. 巻 50
2. 論文標題 在トルコ日本人における対人行動上の困難 - トルコ人との異文化交流における葛藤経験 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 124-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野祥子・田中共子	4. 巻 24
2. 論文標題 在フランス日本人留学生のソーシャル・サポート・ネットワーク - 対人関係の構造を探索する事例的研究 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 留学生教育	6. 最初と最後の頁 51-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野祥子・田中共子	4. 巻 18
2. 論文標題 日本人学生むけムスリム文化アシミレーターの改訂版を用いた異文化間教育の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化共生学研究	6. 最初と最後の頁 53-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/56521/20190320160512577704/scs_018_053_066.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ayse Ilgin Sozen, Tomoko Tanaka, Sachiko Nakano	4. 巻 2018
2. 論文標題 The Academic Culture Shock Experiences of Turkish International Students in Japan: A Qualitative Study.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Asian Conference on Education, 2018 Official Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 295-307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://papers.iafor.org/wp-content/uploads/conference-proceedings/ACE/ACE2018_proceedings.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 JungHui Lee and Tomoko Tanaka	4. 巻 44
2. 論文標題 Acculturation attitudes among Zainichi Koreans living in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Applied Psychology	6. 最初と最後の頁 162-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jstage.jst.go.jp/article/oushinken/44/3/44_162/_pdf/-char/en	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 迫こゆり・田中共子	4. 巻 15
2. 論文標題 在ブラジル日本人における異文化滞在のソーシャルスキルの検討 - 社会生活スキルと対人スキルの観点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 多文化関係学	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中共子	4. 巻 2018
2. 論文標題 在日留学生の異文化適応支援のための異文化間ソーシャルスキル学習の実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第四回アジア未来会議	6. 最初と最後の頁 2217-2219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.dropbox.com/s/27coayu1z18zqtr/AFC4%20Proceedings%20CD.pdf?dl=1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakano, S., & Tanaka, T.	4. 巻 2018
2. 論文標題 The implications of social skills on the formation of relationships between Indonesian Muslims and Japanese.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Venture into cross-cultural psychology: Proceedings from the 23rd Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology.	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://scholarworks.gvsu.edu/iaccp_papers/141/	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野祥子・田中共子	4. 巻 48
2. 論文標題 日本人学生を対象としたムスリム文化アシミレーターを用いた異文化間教育の試み - 異文化間ソーシャルスキルの視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 146-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鉄川大健・田中共子	4. 巻 83
2. 論文標題 ブリテン諸島の日本人大学院留学生にみる異文化間友人関係形成	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ウェブマガジン留学交流	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2017/_icsFiles/afieIdfile/2018/02/08/201802tetsukawatataka.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sachiko Nakano, Tomoko Tanaka and Simic-Mira Yamashita	4. 巻 11
2. 論文標題 Difficulties and coping strategy of Muslims in Japan during Intercultural contact situations: Analysis of Difficulties Related to Demographic, Coping Strategies	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Progress in Asian Social Psychology Series, Volume11, Asian Psychology and Asian Societies in the Midst of Change	6. 最初と最後の頁 29-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka	4. 巻 2017
2. 論文標題 The Implications of cross-cultural social skills of Japanese people in Turkey in order to form relationships with Turkish Muslims.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2017 Official Conference Proceedings.	6. 最初と最後の頁 87-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://papers.iafor.org/wp-content/uploads/conference-proceedings/ACP/ACP2017_proceedings.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 JungHui Lee and Tomoko Tanaka	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 Superordinate Identity in Zainichi Koreans (Koreans Living in Japan).	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The IAFOR Journal of Psychology and Behavior Sciences	6. 最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://iafor.org/archives/journals/iafor-journal-of-psychology-and-the-behavioral-sciences/10.22492.ijpbs.3.1.04.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka	4. 巻 11
2. 論文標題 Creating a collaborative culture in Japanese Multicultural care sites: Examing factors influencing mental health	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Progress in Asian Social Psychology Series, Volume11, Asian Psychology and Asian Societies in the Midst of Change	6. 最初と最後の頁 283-304
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野祥子・田中共子・奥西有理	4. 巻 46
2. 論文標題 在日ムスリム留学生の異文化滞在に伴う困難の変容 - 国立大学理工系学生 5名の2年間を振り返る事例分析 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 140-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 迫こゆり・田中共子	4. 巻 22
2. 論文標題 ブラジル留学における困難体験とその対処ー在ブラジル日本人留学生の異文化適応支援に向けて -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 留学生教育	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李正姫・田中共子	4. 巻 42(3)
2. 論文標題 在日コリアンのメンタルヘルスに影響する要因の検討 - 認知面と行動面から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 応用心理学研究	6. 最初と最後の頁 265-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://j-aap.jp/JJAP/JJAP_423_265-266.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野祥子・田中共子	4. 巻 14
2. 論文標題 日本人ホストはムスリム留学生とどのように対人関係を築くのか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 多文化関係学	6. 最初と最後の頁 57-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中共子・中野祥子	4. 巻 15
2. 論文標題 異文化間教育の導入的エクササイズとしての認知地図に関する研究ノート	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文化共生学研究	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://eprints.lib.okayama-u.ac.jp/ja/journal/scs	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野祥子・田中共子	4. 巻 15
2. 論文標題 ムスリム文化学習の教材構成に向けた予備調査：日本人学生を対象とした文化アシミレーター試作版への反応	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文化共生学研究	6. 最初と最後の頁 131-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://eprints.lib.okayama-u.ac.jp/ja/journal/scs	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中共子・中野祥子	4. 巻 15
2. 論文標題 異文化間教育の導入的エクササイズとしての認知地図に関する研究ノート	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文化共生学研究	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/54218/20160528123845411024/scs_015_085_093.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野祥子・田中共子	4. 巻 15
2. 論文標題 ムスリム文化学習の教材構成に向けた予備調査：日本人学生を対象とした文化アシミレーター試作版への反応	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文化共生学研究	6. 最初と最後の頁 131-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/list/journals/scs/15/--/item/54221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Tanaka and Yuri Okunishi	4. 巻 58
2. 論文標題 Social Skills Use of International Students in Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Japanese Psychological Research	6. 最初と最後の頁 54-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/jpr.12097	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 畠中香織・田中共子	4. 巻 12
2. 論文標題 在日外国人ケア労働者における異文化間ソーシャル・スキルの異文化適応への影響	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 多文化関係学	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsmrejournal/12/0/12_105/_pdf/-char/ja	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka	4. 巻 2015
2. 論文標題 The Influence of Social Skills and Support Promotion on the Sociocultural Adjustment of Foreign Care Workers in Japan	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2015: Official Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 575-584
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://25qt511nswfi49iayd31ch80-wpengine.netdna-ssl.com/wp-content/uploads/papers/acp2015/ACP2015_09595.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koyuri Sako, Tomoko Tanaka and Junghuims Lee	4. 巻 2015
2. 論文標題 The Relation between Acculturation Attitudes and Depression among Japanese People in Brazil	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2015: Official Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 363-384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://25qt511nswfi49iayd31ch80-wpengine.netdna-ssl.com/wp-content/uploads/papers/acp2015/ACP2015_09052.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中野祥子・田中共子	4. 巻 20
2. 論文標題 日本人学生を対象としたムスリム文化アシミレーターを用いた異文化間教育の試み	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 留学生教育	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sachiko Nakako, Yuri Okunishi and Tomoko Tanaka	4. 巻 10th
2. 論文標題 Interpersonal Behavioral Difficulties of Muslim Students in Japan During Intercultural Contact	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Proceedings of the 10th Asian Association of Social Psychology Biennial Conference	6. 最初と最後の頁 154-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://asiansocialpsych.org/proceedings+of+the+10th+asian+association+of+social+psychology+biennial+conference	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計46件(うち招待講演 0件/うち国際学会 22件)

1. 発表者名 秦喜美恵・中野祥子・田中共子
2. 発表標題 学習課題を伴うフィールドトリップにおける機能的多文化小集団の形成
3. 学会等名 異文化間教育学会第40回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ayse Ilgin Soze and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 Social Skills of Turkish International Students During Cross-Cultural Transition to Japan
3. 学会等名 The 13th Biennial Asian Association of Social Psychology Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mira Simic-Yamashita and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 Forming Intercultural Friendships with Hosts: A Qualitative Study of Serbians in Japan and Japanese in Serbia
3. 学会等名 The 13th Biennial Asian Association of Social Psychology Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jung-Hui Lee and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 Relationship Between Acculturation, Identity, And Self-Identification Amongst Zainichi Koreans In Japan
3. 学会等名 7th Asian Congress of Health Psychology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ayse Ilgin Sozen, Tomoko Tanaka, Sachiko Nakano
2. 発表標題 Cross-Cultural Adaptation of Turkish International Students in Japan: A Qualitative Study
3. 学会等名 The Asian Conference on Psychology and Behavior Sciences 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ayse Ilgin Sozen, Tomoko Tanaka, Sachiko Nakano
2. 発表標題 The Academic Culture Shock Experiences of Turkish International Students in Japan: A Qualitative Study
3. 学会等名 The Asian Conference on Education 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中共子
2. 発表標題 グループセッション - 研究・臨床・教育現場における実践のダイバーシティ：在日留学生の異文化適応支援のための異文化間ソーシャルスキル学習の実践
3. 学会等名 第四回アジア未来会議 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuri Okunishi and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 Re-acculturation of Chinese returnees experiencing overseas study in Japan
3. 学会等名 29th International Congress of Applied Psychology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 畠中香織・山本恵美子・田中共子
2. 発表標題 在日外国人ケア労働者と日本人の協働文化の構築に向けて(2)～介護施設で就労する日本人スタッフの視点からの協働要素の分析～
3. 学会等名 日本健康心理学会第31回 大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秦喜美恵・中野祥子・田中共子
2. 発表標題 多文化小集団によるフィールドトリップ活動におけるソーシャルスキルの獲得
3. 学会等名 異文化間教育学会第34回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中野祥子・田中共子
2. 発表標題 在日ムスリム留学生における社会生活上の困難への対処方略の変容 - 2年間を振り返る8名の事例分析 -
3. 学会等名 第23回留学生教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋礼子・田中共子
2. 発表標題 在韓日本人留学生における社会文化的適応と対処 - 在韓10年目の学生の事例から -
3. 学会等名 第23回留学生教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayse Ilgin Sozen and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 The academic culture shock of Turkish Students in Japan: Two case studies of graduate students.
3. 学会等名 Twelfth International Conference on Interdisciplinary Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kaori Hatanaka, Emiko Yamakoto and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 Development of "Japanese care methods" in an elderly care facility in Indonesia - The case of an Indonesian care workers who worked in Japan under the EPA and repatriated.
3. 学会等名 The 12th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫こゆり・田中共子
2. 発表標題 ブラジル留学における困難体験とその対処 社会環境と対人環境に注目して
3. 学会等名 多文化関係学会第16回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫こゆり・田中共子
2. 発表標題 在ブラジル日本人妻の異文化滞在における社会的困難と対処
3. 学会等名 日本健康心理学会第30回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鉄川大健・田中共子
2. 発表標題 在米日本人留学生の異文化間友人関係形成 - 日本コミュニティの活用と友人選択行動 -
3. 学会等名 日本健康心理学会第30回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 畠中香織・山本恵美子・田中共子
2. 発表標題 在日外国人ケア労働者と日本人の協働文化の構築に向けて - 介護施設で就労する外国人の視点からの協働要素の分析 -
3. 学会等名 日本健康心理学会第30回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秦喜美恵・中野祥子・田中共子
2. 発表標題 混合クラスにおける機能的多文化小 集団の形成
3. 学会等名 異文化間教育学会 第38 回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中野祥子・田中共子
2. 発表標題 日本人学生を対象としたムスリム留学生との異文化交流のための異文化間教育 - 文化摩擦場面のロールプレイから異文化間ソーシャルスキルへ -
3. 学会等名 異文化間教育学会第38回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jung Hui Lee and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 Superordinate Identity in Zainichi Koreans (Koreans Living in Japan)
3. 学会等名 Asian Congress on Psychology and the Behavioral Sciences 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kaori Hatanaka, Emiko Yamamoto and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 Elements of Collaboration between Foreign and Japanese Care Workers: A Case Report of an Elderly Facility in Japan
3. 学会等名 Asian Congress on Psychology and the Behavioral Sciences 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 The implication of cross-cultural social skills of Japanese people in Turkey in order to form relationship with Turkish Muslims.
3. 学会等名 Asian Congress on Psychology and the Behavioral Sciences 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 The Implications of Cross-cultural Social Skills of Japanese People in Turkey in order to Form Relationships with Turkish Muslims
3. 学会等名 2017 Society for Personality and Social Psychology Convention (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中野祥子・田中共子
2. 発表標題 在トルコ日本人における対人行動上の困難 トルコ人との異文化交流における葛藤経験の分析 -
3. 学会等名 多文化関係学会第15回年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鉄川大健・田中共子
2. 発表標題 在スペイン日本人留学生の異文化間友人関係形成
3. 学会等名 多文化関係学会第15回年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中野祥子・田中共子
2. 発表標題 日本人ホストは在日ムスリム留学生とどのように関わりを築いていくのか？ - 異文化接触場面における交流の工夫 -
3. 学会等名 日本質的心理学会第13回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Koyuri Sako and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 Exploratory research on the relationship between Japanese Brazilians and Japanese living in Brazil -The Nikkei three-factor model comprising language and social support needs, selective relationships, and national group preferences-
3. 学会等名 International Association for Cross-cultural Psychology, 23rd International Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hirokatsu Tetsukawa and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 “Nommunication” of Japanese Students in Europe: Affect of Attitude on Behavior Exhibited in Alcohol Based Social Situation.
3. 学会等名 International Association for Cross-cultural Psychology, 23rd International Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka
2 . 発表標題 The implications of social skills on the formation of relationships between Muslim and Japanese.
3 . 学会等名 International Association for Cross-cultural Psychology, 23rd International Congress (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Kaori Hatanaka, Emiko Yamamoto and Tomoko Tanaka
2 . 発表標題 Comparison of Japanese and Foreign Care Workers ' Impressions of Care Work in Japan with the Aim of Improving Cross-Cultural Care at a Japanese Care Site
3 . 学会等名 The 6th Asian Congress of Health Psychology (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Hirokatsu Tetsukawa and Tomoko Tanaka
2 . 発表標題 Japanese Students' Coping Strategies and Perception of Interpersonal Cultural Differences While Sojourning in the United Kingdom: With a Focus on Cross-Cultural Friendships
3 . 学会等名 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka
2 . 発表標題 Interpersonal Behavioral Difficulties of Japanese People in Indonesia During Situations of Intercultural Contact: Implications for Learning Social Skills towards Forming Relationships with Indonesian Muslims.
3 . 学会等名 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名 鉄川大健・田中共子
2. 発表標題 在仏日本人留学生のソーシャルサポートネットワーク
3. 学会等名 日本応用心理学会第83回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鉄川大健・田中共子
2. 発表標題 在スイス日本人留学生の異文化間友人関係形成
3. 学会等名 日本社会心理学会第57回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中野祥子・田中共子
2. 発表標題 日本人学生向けムスリム文化アシミレーターの改訂版を用いた異文化間教育の試み
3. 学会等名 異文化間教育学会第37回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田中共子
2. 発表標題 AUC-GS学習モデルに基づくASセルのエクササイズとして構成された文化間距離課題への反応
3. 学会等名 異文化間教育学会第37回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鉄川大健・田中共子
2. 発表標題 在仏日本人留学生のソーシャルスキル：友人関係における困難，対処方略および工夫，ホストによる対処の評価
3. 学会等名 日本健康心理学会第29回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kaori Hatanaka, Emiko Yamamoto and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 The influence of the relationship with foreign care workers on depression, meaningful life, and perceived health status of the Japanese elderly
3. 学会等名 第3回アジア未来会議（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鉄川大健・田中共子
2. 発表標題 日本人留学生におけるホストとの友人関係形成 - 欧州圏への留学に関する事例的検討 -
3. 学会等名 応用心理学会第82回大会
4. 発表年 2015年～2016年

1. 発表者名 鉄川大健・田中共子
2. 発表標題 日本人留学生の異文化間友人関係に関する事例的検討 - フランスにおける友人関係形成スキルへの示唆 -
3. 学会等名 多文化関係学会第14回年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 中野祥子・田中共子
2. 発表標題 在日ムスリム留学生の異文化適応スタイル - 2年後の振り返りにみる渡日後の変化に関する認知 -
3. 学会等名 多文化関係学会第14回年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 畠中香織・田中共子
2. 発表標題 異文化間ケアと高齢者の精神的健康(1)：外国人によるケアの有無とケアの受け止め方からみたうつ傾向・生きがい感・主観的健康感
3. 学会等名 日本健康心理学会第28回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka
2. 発表標題 Creating a collaborative culture in Japanese multicultural care sites: Examination of the influencing factors on mental health
3. 学会等名 The 11th conference of the Asian Association of Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Sachiko Nakano, Tomoko Tanaka and Mira Simic-Yamashita
2. 発表標題 Difficulty and coping strategies of Muslims in Japan during intercultural contact situations: A factor Analysis
3. 学会等名 The 11th conference of the Asian Association of Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 中野祥子・田中共子
2. 発表標題 日本人留学生を対象としたムスリム文化アシミレーターの試作
3. 学会等名 異文化間教育学会第36回大会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 白土悟・田中共子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 231
3. 書名 異文化間教育学体系 第一巻・異文化間に学ぶ「ひと」の教育（小島勝・白土悟・齋藤ひろみ編） 「第三章・外国人留学生の教育」60-82	

1. 著者名 田中共子（能智 正博（編集代表）・香川 秀太・川島 大輔・サトウ タツヤ・柴山 真琴・鈴木 聡志・藤江 康彦（編））	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 432
3. 書名 質的心理学辞典 「異文化間心理学」「異文化体験」「異文化適応」「異文化接触」	

1. 著者名 田中共子（日本健康心理学会編、嶋田洋徳・編集委員長、上地広昭・大竹恵子・岸太一・田中共子・山鷲 圭輔・編集幹事）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 718
3. 書名 健康心理学事典 8章 対人・集団・社会（編集） 異文化適応 378-379、コラム・異文化と健康 - 国際化時代における実践 394	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	李 正姫 (Lee Jung-Hui) (10747984)	神奈川歯科大学・歯学部・講師 (32703)	
研究分担者	畠中 香織 (Hatanaka Kaori) (40756227)	関西医科大学・看護学部・講師 (34417)	
研究分担者	奥西 有理 (Okunishi Yuri) (50448156)	岡山理科大学・教育学部・准教授 (35302)	
研究分担者	中野 祥子 (Nakano Sachiko) (90803247)	山口大学・大学教育機構・助教 (15501)	
研究協力者	迫 こゆり (Sako Koyuri)	岡山大学・社会文化科学研究科・研究員 (15301)	
研究協力者	シミッチ ミラー山下 (Mira-Yamashita Simic)	岡山大学・社会文化科学研究科・研究員 (15301)	
研究協力者	ソゼン アイシェ ウルグン (Sozen Ayse Ilgin)	岡山大学・社会文化科学研究科・博士後期課程大学院生 (15301)	
研究協力者	鉄川 大健 (Tetsukawa Hirokatsu)	岡山大学・社会文化科学研究科・博士後期課程大学院生 (15301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	秦 喜美恵 (Shin Kimie) (90162784)	立命館アジア太平洋大学・教育開発・学修支援センター・教授 (37503)	